

1 はじめに

本校は全校児童89名の小規模校である。各学年は単学級のためクラス替えもなく、人間関係が固定化してしまう傾向にある。そのため、本校では望ましい人間関係の形成及び社会性の育成という点において、たてわり班による異学年集団活動に力を入れている。低学年の頃から高学年に優しくサポートしてもらっていた児童は、高学年になると低学年に対して優しく接することができるようになっている。そのような本校の実践を紹介する。

2 資料（実践事例、写真等）

（1）たてわり班スポーツ大会（たてわり対抗リレー・8の字跳び）

毎年、友遊タイム（ロング昼休み）を活用し、たてわり班によるスポーツ大会を実施している。今年度は2学期にたてわり対抗リレー、3学期にたてわり班での8の字跳びを実施した。たてわりリレーについては今年度より新しく取り入れた活動である。計画・JRC委員会を中心にルールを考え、班ごとの力の差が大きくならずに、全員が楽しめるような工夫をすることができた。

活動全体を通して、6年生を中心に1年生～6年生まで協力して活動することができている。高学年が低学年の面倒を見ながら班の仲間を並ばせたり、大なわの跳び方を教えたりしていた。また、各班で役割分担や作戦等を考えることを通して、それぞれの班において学年関係なく意見を出し合い、作戦を考える姿が見られた。本番では力を合わせて競い合ったり、応援したりする姿が見られた。どの大会でも、計画・JRC委員会を中心に、みんなに楽しんでもらえるよう、計画・運営し、大会を盛り上げていた。

（2）たてわり班あいさつ運動

毎月2日間、たてわり班による朝のあいさつ運動を行っている。たてわり班で分担して旗を持ったり襷を掛けたりしながら、登校してくる児童へ元気よくあいさつをしている。地域の方の参加も多く、地域全体であいさつの大切さを学び合うよい機会となっている。



【たてわり班対抗リレー】



【たてわり班8の字跳び】



【たてわり班あいさつ運動】

3 成果と課題

- ・高学年が中心となって計画や運営などを行い、主体的に活動することができた。
- ・異学年の交流を行う中で、学級とはちがう役割や活躍の場が生まれた。それにより、責任感や自己有用感を味わうことのできる機会とすることができた。
- ・次年度も計画・JRC委員会を中心とした児童会の活動を充実させ、児童の主体性や創意工夫を生かしながら学校全体を活性化していきたい。